

## IV. 診療科活動状況

---

## 総合内科

### 1. 概要、特徴、特色

当院では医師臨床研修制度が必修化される前からローテーション研修を行っており、医師研修に力を入れてきました。内科医は「専門医であろうとも総合的基礎力を備えた医師であれ」というポリシーを掲げて研鑽を積んできました。2012年度に内科病棟のシステム変更を行うことになり、総合内科を立ち上げました。

当院の初期研修医は総合内科から研修をスタートします。医師としての第一歩を踏み出す彼らに基本的な診療スタイルを身につけさせる教育も総合内科の大きな役割です。初期研修委員会を月に2回開催し、指導方針の確認を行い、研修医の育成も担っています。

地域医療の現場では、いかなる疾患にも対応できる総合力が求められています。私たち総合内科は「特に専門家に任せるべきものでない限りは、いかなる患者様でも担当する」という態度で診療を行っています。所属する内科医は病院総合内科の専門家（オールラウンダー）としての偏りない高水準の診療を目指しますが、おのおのサブスペシャリティも持っており、その分野では専門診療の責任を担っています。

入院診療では、肺炎や尿路感染症をはじめとする感染症・心不全・糖尿病・脳梗塞等について標準的な医療を提供しています。脳神経外科の石丸純夫医師の指導のもと、脳出血や頭部外傷の診療も行っています。また、高齢であることや心理的社会的に複雑な背景から倫理的判断を迫られるケースについての集団的カンファレンスも活発に行っています。

外来診療では他科と協力して2次救急までの救急外来・全科当直、一般内科外来、それぞれの専門に応じた外来を担当しています。救急車は年間

4,000件前後搬入されており、日々多彩な救急疾患の診療に当たっています。病棟内にHCU（高度治療室）があるため、ERからの入院への迅速な対応や急性期の管理も行っています。

### 2. スタッフ

#### 総合内科科長・内科部長

忍 哲也 日本内科学会総合内科専門医  
日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医  
日本消化器病学会消化器病専門医  
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医  
日本肝臓学会肝臓専門医

#### 循環器内科科長

金子 史

#### 糖尿病科医長

島村 裕子

#### 救急科科長

守谷 能和 日本内科学会認定内科医  
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医  
救急科専門医  
ICD（感染制御医師）

#### 病棟医長

山田 歩美 日本内科学会認定内科医  
日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医  
日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医  
総合内科専門医

#### 透析室医長・病棟医長

肥田 徹 日本内科学会認定内科医  
総合内科専門医

#### 医員

久志本舞衣子 日本内科学会認定内科医  
日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医

日本プライマリ・ケア連合学会  
認定プライマリ・ケア認定医

医員（後期研修医）

佐藤 順紀

松村 綾

松村 憲浩

### 3. 診療実績

#### (1) 外来診療

内科急患総合外来、各科専門外来、一般全科当直、  
E R担当

#### (2) 病棟診療

診療実績（診断群分類6桁別、2018年退院患者） 202傷病群+包括外4例

\*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院日数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例*	その他の加療
040080	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く） 末梢循環不全なし	12	71.4	15.9	3	4	0	12
110310	アルコール性肝障害	26	61.3	19.1	9	14	3	26
010060	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	11	80.0	7.8	6	6	0	11
050130	ウイルス性腸炎	24	55.8	5.7	9	7	0	24
060340	その他の消化管の障害	12	66.6	7.3	3	6	0	12
040081	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	18	74.3	11.8	10	2	0	18
060102	ヘルニアの記載のない腸閉塞	34	69.1	13.3	13	9	6	34
060350	胃の悪性腫瘍	22	76.0	18.2	7	15	9	22
040120	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄 （穿孔を伴わないもの）	37	73.7	10.7	13	12	24	37
060335	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む）	17	75.0	20.0	5	10	5	17
030400	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む）	30	70.3	17.8	15	12	13	30
060360	間質性肺炎	32	78.0	24.8	8	14	1	32
180010	気胸	15	51.4	10.3	2	6	3	15
060190	急性腎不全	26	72.3	10.6	10	15	1	26
060140	急性膵炎	60	56.7	12.1	16	29	25	60
060210	虚血性腸炎	39	68.5	6.9	13	9	0	39
040110	胸水、胸膜の疾患（その他）	11	74.9	12.1	2	5	0	11
080010	劇症肝炎、急性肝不全、急性肝炎	11	56.0	13.8	2	3	0	11
060130	結腸（虫垂を含む）の悪性腫瘍	21	75.0	21.0	4	10	10	21
060300	呼吸器のアスペルギルス症	11	77.2	28.0	3	4	1	11
110280	誤嚥性肺炎	116	84.3	17.7	76	58	6	116
060280	細菌性腸炎	10	60.4	6.5	3	4	0	10
110290	四肢筋腱損傷	11	73.8	8.8	11	3	0	11
040100	手術・処置等の合併症	16	72.1	14.1	5	9	2	16
060380	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	30	63.2	7.5	10	6	9	30
060020	心不全	150	79.6	14.8	62	69	5	150
010040	腎臓または尿路の感染症	182	77.9	13.3	72	83	5	182
060035	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	60	62.5	8.2	12	24	23	60
130090	前庭機能障害	43	68.5	4.3	30	8	0	43
161070	全身性臓器障害を伴う自己免疫性疾患	15	69.4	27.2	4	12	0	15
06007x	体液量減少症	15	82.3	11.5	13	5	0	15
100393	胆管（肝内外）結石、胆管炎	127	76.9	10.6	39	74	102	127
060050	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	16	79.2	26.1	2	10	12	16

040150	胆嚢水腫、胆嚢炎等	45	72.6	18.4	15	11	29	45
060060	男性生殖器疾患	14	76.4	12.4	6	5	1	14
180040	痛風、関節の障害 (その他)	10	78.0	8.6	3	4	0	10
040040	低カリウム血症	11	66.2	9.9	3	2	0	11
040200	頭蓋・頭蓋内損傷	12	77.3	13.7	7	1	2	12
070560	脳梗塞	152	75.4	31.3	73	44	5	152
100380	脳脊髄の感染を伴う炎症	13	39.7	4.7	6	2	0	13
11022x	脳卒中の続発症	13	73.4	86.8	7	3	0	13
010069	膿皮症	32	73.7	12.6	10	18	0	32
010080	敗血症	41	79.8	14.0	24	16	2	41
060570	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	16	70.0	28.4	9	9	5	16
100070	肺の悪性腫瘍	15	76.6	17.4	8	7	0	15
130030	肺炎等	261	78.2	15.2	114	111	7	261
160100	非ホジキンリンパ腫	12	74.9	20.2	2	6	1	12
040070	非外傷性頭蓋内血腫	21	74.4	25.2	11	6	1	21
040151	貧血 (その他)	19	78.9	11.2	3	11	1	19
040190	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	28	72.8	22.6	10	16	12	28
060270	慢性閉塞性肺疾患	49	77.2	15.2	21	16	0	49
100391	慢性肺炎 (肺嚢胞を含む)	41	58.7	9.5	5	32	32	41
160610	薬物中毒 (その他の中毒)	19	53.8	7.7	12	8	0	19
030240	喘息	24	67.2	11.1	4	8	1	24
060390	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	10	41.1	5.1	0	3	3	10
070510	脾臓、脾臓の腫瘍	19	77.8	21.9	3	14	8	19
	その他の傷病	461			172	181	69	461
	計	2,598	72.9	15.7	1,020	1,091	444	2,598

## 循環器内科

### 1. 概要、特徴、特色

当院では高血圧症・虚血性心疾患（狭心症など）・不整脈・心不全・弁膜症などを中心に循環器疾患全般にわたって診療を行っています。

外来では心電図検査・胸部レントゲン検査・心臓超音波検査・ホルター心電図検査・トレッドミル運動負荷心電図検査などを行い、心臓病の早期発見に努めます。

狭心症などの虚血性心疾患が疑われる場合は、診断の精度を高めるために、心臓カテーテル検査（通常2泊3日入院）を行います。ほとんどの症例で体に負担が少ない手首からの心臓カテーテル検査を行っています。また、入院せずに外来で精密検査を行うことのできるように、心臓冠動脈CT検査を導入しています。

心臓カテーテル検査などで冠動脈の狭窄が発見された場合は心臓カテーテル治療（経皮的冠動脈ステント留置術など）を行っています。バルーンを用いて血管の狭窄を拡張したり、金属でできた金網（ステント）を植え込む治療を行います。心臓カテーテル検査や治療では、クリニカルパスを用いて、安全な検査・治療に努めています。

不整脈では、ペースメーカー手術も行っています。退院後はペースメーカー外来（予約制）で定期的に術後の経過をみせていただいています。

心臓病の予防も重要な分野として、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリなどを含めて取り組んでいます。

また、心臓病を悪化させる原因として喫煙や睡眠時無呼吸症候群などがあり、禁煙外来や息いき外来（睡眠時無呼吸症候群）とも連携をとって、診療を行っています。

### 2. スタッフ

副院長

福庭 勲 日本内科学会認定内科医  
日本循環器学会認定循環器専門医  
I C D（感染制御医師）

科長

金子 史

### 3. 診療実績

#### (1) 外来診療

主たる疾患：高血圧・心不全・虚血性心疾患・不整脈・弁膜症・心筋症・閉塞性動脈硬化症など  
手術適応症例は心臓外科外来（非常勤）にて診療  
ペースメーカー外来（月1回）

#### (2) 入院治療

次頁表参照

#### (3) 検査

次頁表参照

#### (4) 治療

1) 経皮的冠動脈ステント留置術 14例／形成術 1例

〈治療内訳〉

病変部位（重複含む）：LMT 1例、LAD 5例、LCX 3例、RCA 5例

ISR病変：1例（RCA 1例）

2) 下肢血管拡張術 16例

〈治療内訳〉

病変部位（重複含む）：SFA 5例、CTO病変 2例

3) ペースメーカー移植術 11例

不整脈：完全房室ブロック 7例（DDD 2例）

高度房室ブロック 1例（VVI 1例）

洞不全症候群 3例（DDD 1例、VVI 2例）

4) ペースメーカー交換術 14例

診療実績 (診断群分類6桁別、2018年退院患者)

\*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例*	診断 検査	計画的 繰り返し入院	その他 の加療
050030	急性心筋梗塞 (続発性合併症を含む)、 再発性心筋梗塞	23	82.9	3.0	18	6	0	1		22
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	152	70.9	3.4	2	55	15	127		25
050060	心筋症 (拡張型心筋症を含む)	3	60.7	23.0	0	3	0			3
050070	頻脈性不整脈	11	84.3	10.6	2	2	0			11
050080	弁膜症 (連弁膜症を含む)	9	84.4	13.0	1	3	1			9
050090	心内膜炎	4	79.0	25.5	3	3	0			4
050130	心不全	165	79.4	14.2	65	73	5			165
050140	高血圧性疾患	7	63.0	7.3	3	0	0			7
050161	解離性大動脈瘤	8	83.4	3.0	8	2	0			8
050162	破裂性大動脈瘤	2	96.5	7.0	1	1	0			2
050163	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	2	90.0	17.5	0	2	0			2
050170	閉塞性動脈疾患	23	74.0	9.0	1	5	5	12		11
050180	静脈・リンパ管疾患	7	73.1	11.9	0	3	1			7
050190	肺塞栓症	7	74.3	12.9	2	2	0			7
050200	循環器疾患 (その他)	4	72.5	13.0	2	0	1			4
050210	徐脈性不整脈	30	84.2	12.2	6	12	25		10	20
	計	457	76.6	9.3	114	172	53	140	10	307

検査及び処置名	件数
経皮的冠動脈ステント留置術 その他のもの	15
ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合	11
ペースメーカー交換術	14
四肢の血管拡張術・血栓除去術	5
経皮的シャント拡張術・血栓除去術	37
下大静脈フィルター留置術	0
心臓カテーテル検査	172
UCG	3,543
ホルター心電図	957
トレッドミル	227
経食道エコー	12
心臓CT	219
体内ペーシング	11
体外ペーシング	25
PCI (IVUS)	23

## 呼吸器内科

日本内科学会認定内科医  
日本プライマリ・ケア連合学会  
認定指導医

医員（外部研修中）

草野 賢次 ICD（感染制御医師）  
日本内科学会認定内科医

### 1. 概要、特徴、特色

人口10万対医師数の少ない埼玉県において、呼吸器診療を専らとする医師は極めて少ない状況です。しかし、肺がんを始めとした呼吸器疾患は減少するどころか多くは増加しているのが現状です。そこで当院の立地している東浦和駅周辺地域において、地域の中核病院たるべく呼吸器科領域を幅広く診療しています。一般的な肺炎診療から、非結核性抗酸菌症や排菌のない結核症などといった感染性疾患や、慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息といった気道疾患、間質性肺疾患、肺がんなどに対する診療を外来・病棟で展開しています。

当院呼吸器外科とも連携を取り、肺がん手術のみならず、気胸や膿胸などといった炎症性疾患、胸腔鏡下肺生検なども依頼しています。

また、当院呼吸器内科の特色の一つはコメディカルスタッフとの協力です。慢性閉塞性肺疾患患者が中心ですが、リハビリテーション部門とも連携して外来呼吸リハビリテーションを行っています。

年に1回、地域住民に向けて慢性閉塞性肺疾患あるいは気管支喘息について講習会を開催し、積極的に地域住民の健康活動を啓蒙することを志しています。

日本呼吸器学会認定施設

### 2. スタッフ

科長

原澤 慶次 日本内科学会認定内科医  
ICD（感染制御医師）

医員

市川 篤 日本呼吸器学会呼吸器専門医・  
指導医

### 3. 診療実績

#### (1) 外来診療

常勤3名ならびに非常勤医師4名で予約外来を行っています。

2012年から始めた慢性閉塞性肺疾患の患者を中心とした2ヵ月間の外来呼吸リハビリテーションを継続して実施し、リハビリ部門だけでなく栄養士や薬剤師なども含め多職種で患者の病状維持に努めています。今後もしリハビリテーション部門と連携し、拡充していく予定です。

#### (2) 検査・手術

病棟での経皮的気管切開術を行っています。2018年は7件の手術を行いました。

気管支鏡検査は原則入院とした上で施行しており、2018年には84件の実績があります。また、局所麻酔下胸腔鏡検査にも取り組んでいます。原因不明胸水の診断目的などに有用であり、今後も積極的に行いたいと考えています。

#### (3) 病棟診療

常勤医師2名で担当しています。肺炎や慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息などの気道疾患、間質性肺炎、肺がんなどを扱っています。

次頁表参照

### 4. 教育・研修・研究活動

#### (1) 教育・研修

1) 日本呼吸器学会認定施設として、呼吸器内科志望の後期研修医に対する教育・研修プログラムを展開しています。研修の一環として、他院呼吸器内科に1年間の外部研修を行うことを必須としており、医員1名が研修中です。

2) 院内での研修のために、週1回の割合で多職種合同の病棟カンファレンスを行い、複数の視点でより良い診療を行うことを目指しています。

3) 週に1回、呼吸器外科との合同カンファレンスを行い、手術症例のみならず幅広い症例の検討を行っています。

診療実績 (診断群分類6桁別、2018年退院患者)

\*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院日数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例*	診断検査	計画的繰り返し入院	その他の加療
040010	縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍	2	79	12	0	2	0			2
040040	肺の悪性腫瘍	65	74.5	6.3	4	34	0	33	16	16
040050	胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	2	68	21.5	0	2	1			2
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	11	80	7.8	6	6	0			11
040080	肺炎等	275	78.4	14.8	124	116	7			275
040081	誤嚥性肺炎	119	84.1	18.9	78	58	7			119
040090	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症(その他)	8	78	13	5	4	0			8
040100	喘息	24	67.2	11.1	4	8	1			24
040110	間質性肺炎	43	77.4	23.9	8	22	1			43
040120	慢性閉塞性肺疾患	52	77.1	15.2	21	18	0			52
040130	呼吸不全(その他)	8	83.6	8.3	2	5	0		2	6
040140	気道出血(その他)	2	57.5	8	1	0	0			2
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	18	69.9	27.9	9	10	6	1		17
040151	呼吸器のアスペルギルス症	13	75.6	25.1	3	4	1	1		12
040160	呼吸器の結核	5	76.8	14.4	1	4	0			5
040170	抗酸菌関連疾患(肺結核以外)	4	76.3	12	1	1	0	1		3
040190	胸水、胸膜の疾患(その他)	16	74.5	13.4	3	8	0			16
040200	気胸	16	57.3	22.5	3	4	2			16
040210	気管支拡張症	6	77.2	16.3	1	2	1	1		5
040220	横隔膜腫瘍・横隔膜疾患(新生児を含む)	4	83.3	9	2	1	0			4
040230	血胸、血気胸、乳び胸	1	16	7	0	0	0			1
040240	肺循環疾患	1	67	5	0	0	0			1
040250	急性呼吸窮(促)迫症候群	1	89	3	1	0	0			1
04026x	肺高血圧性疾患	2	73.5	18	0	1	0			2
040310	その他の呼吸器の障害	2	79	30.5	2	1	1			2
	計	700	73.8	13.6	279	311	28	37	18	645

化学療法	件数
患者数	17
延べ回数	120

処置検査	件数
気管切開術	7
新規人工呼吸器管理	16
胸腔穿刺	94
気管支鏡検査	84
在宅酸素療法新規導入	101

## 消化器内科

### 1. 概要、特徴、特色

当院消化器内科は、地域に密着した急性期病院の消化器内科としての役割を果たすべく、診療にあたっています。

当院の1次2次を中心とした救急車搬入台数は年間約4,000台に及び、消化管出血や黄疸を主訴とする患者さんも数多く来院するため、救急医療において消化器内科医の果たす役割は大きくなっています。地元の開業医の先生方とも連携し、定期的に地域医療懇談会を開催し、消化器専門科として紹介患者さんの受け入れや、開業医の先生方への逆紹介も積極的に行っています。

消化器内科では上部・下部消化管内視鏡検査、内視鏡的膵胆管造影及びその関連検査、超音波内視鏡検査、治療内視鏡を行っています。大腸ポリープに対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）や上部・下部早期がんに対する粘膜下層剥離術（ESD）の件数も年々増加しており、緊急の胆道ドレナージ術（ERCP・PTGBD）にも対応しております。多くの膵石診療の経験を持つ辻忠男医師の指導のもと、慢性膵炎の診療実績は155例となり、遠方の大学病院やがんセンターなどからも紹介患者さんを多数受け入れています。

消化器専門外来では消化性潰瘍、炎症性腸疾患、肝疾患、消化器がんなどの慢性期管理を行っています。最近ではB型慢性肝炎・C型慢性肝炎の治療件数も増えています。

さらに、重症急性膵炎や急性閉塞性化膿性胆管炎などの重症疾患では救急チームと連携し、HCU管理を行い、潰瘍性大腸炎で血液浄化療法が必要になる場面は透析チームと、進行がんに対しては外科や化学療法チーム・緩和ケアチームと連携し、治療を行っています。化学療法患者は年々増加しており、週1回程度のキャンサーボードを開

催しレジメンを検討し、多職種のスタッフで意見を共有し、治療を行っております。

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本胆道学会指導施設

日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設

日本消化器病学会認定施設

日本肝臓学会関連施設

### 2. スタッフ

院長

増田 剛 日本内科学会総合内科専門医

日本消化器内視鏡学会指導医

日本消化器病学会消化器病専門医

日本肝臓学会肝臓専門医

院長補佐

高石 光雄 日本内科学会認定内科医

日本消化器病学会消化器病専門医

副院長

小野未来代 日本内科学会総合内科専門医

日本消化器内視鏡学会指導医

内科診療部長

辻 忠男 日本内科学会認定内科医

日本超音波医学会認定超音波指導医

日本消化器病学会指導医

日本消化器内視鏡学会指導医

日本胆道学会認定指導医

内科部長・総合内科科長

忍 哲也 日本内科学会総合内科専門医

日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医

日本消化器病学会消化器病専門医

日本消化器内視鏡学会指導医

日本肝臓学会肝臓専門医

救急科科長

守谷 能和 日本内科学会認定内科医

日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

救急科専門医

I C D (感染制御医師)

病棟医長

久保地美奈子 日本内科学会認定内科医  
日本プライマリ・ケア連合学会  
認定指導医  
日本消化器病学会消化器病専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医

消化器内科科長

間野 真也 日本内科学会総合内科専門医  
日本消化器病学会消化器病専門医  
日本消化管学会胃腸科専門医  
日本肝臓学会肝臓専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医

医員

大石 克己 日本内科学会総合内科専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
天野 由紀 日本内科学会総合内科専門医  
日本消化器病学会消化器病専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
孫 国東 日本内科学会認定内科医  
杉山 鑑夫

3. 診療実績

右表および次頁表参照

4. 教育・研修・研究活動

当科では、まず内科医として消化器以外の患者さんの初期対応や判断、治療ができる力量を身につけることを目標に、一般外来や時間外診療を担っています。そして、上下部内視鏡のスクリーニング検査を確実に実施できるように教育し、ERC Pにも積極的に参加しております。後期研修では大腸ポリープEMRや緊急内視鏡検査も行い、あらゆる処置に対応できるように努めています。

また、各種学会参加や発表も積極的に行い、専門医資格取得を目指しています。

検査・処置	件数
上部消化管内視鏡検査	7,494
上部 (悪性) E S D	63
上部 (良性) E M R	4
下部消化管内視鏡検査	2,053
下部 (悪性) E S D	17
下部 (悪性) E M R	22
下部 (良性) E M R	582
胆道系検査・処置	506
P E G交換	85
P T E G交換	19
P E G造設	29
腹部アンギオ	4
P E I T	7
T A E	24
T A I	
E I S	8
E V L	11
止血術	15
食道ステント	5
食道拡張	3
肝生検・その他の生検	10
吻合部拡張術	8
穿刺 (膿瘍・胆嚢)	67
ラジオ波焼灼	3
超音波内視鏡検査	73
胆道 E S W L	428
膀胱 E S W L (一連)	8

B型肝炎 (核酸アナログ治療)	58
C型慢性肝炎 (経口治療)	4

## 診療実績（診断群分類6桁別、2018年退院患者）

\*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例*	診断 検査	計画的 繰り返し入院	その他 の加療
060010	食道の悪性腫瘍（頸部を含む）	15	72.7	10.1	1	5	10		1	14
060020	胃の悪性腫瘍	76	73.8	8.1	4	40	51	3	15	58
060035	結腸(虫垂を含む)の悪性腫瘍	29	71.3	7.2	0	16	20	2		27
060040	直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍	19	67.3	4.8	0	5	14	2	3	14
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む）	40	72.7	10.0	5	21	19	2	1	37
060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	17	81.4	13.8	1	9	12	1		16
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	66	71.2	6.6	2	35	16	33	4	29
060090	胃の良性腫瘍	15	65.7	4.3	1	5	7	7		8
060100	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む）	519	69.1	2.1	0	180	486	31		488
060102	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	70	64.3	7.4	16	25	23	6		64
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他 良性疾患）	35	63.6	7.2	10	10	11			35
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿 孔を伴わないもの）	40	72.7	10.3	13	12	26			40
060150	虫垂炎	2	32.0	12.0	1	0	1			2
060180	クローン病等	3	67.3	16.3	2	1	1			3
060185	潰瘍性大腸炎	12	41.8	17.0	0	5	0			12
060190	虚血性腸炎	39	68.8	6.9	13	9	0			39
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	32	69.3	11.9	12	10	5			32
060241	痔核	7	64.3	9.6	1	5	1			7
060245	内痔核	1	71.0	5.0	0	1	0			1
060270	劇症肝炎、急性肝不全、急性肝炎	12	57.8	12.9	2	4	0			12
060280	アルコール性肝障害	30	59.8	19.2	8	13	4			30
060290	慢性肝炎（慢性C型肝炎を除く）	5	52.0	10.4	0	3	0	1		4
060300	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む）	35	68.8	17.6	15	16	17			35
060310	肝膿瘍（細菌性・寄生虫性疾患を含む）	10	66.5	21.8	2	5	4			10
060330	胆嚢疾患（胆嚢結石など）	5	69.2	7.2	3	1	2	1		4
060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	43	74.0	17.8	15	11	25	1		42
060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	155	75.4	9.7	41	92	126			155
060350	急性膵炎	67	57.2	12.4	16	33	27	2		65
060360	慢性膵炎（膵嚢胞を含む）	155	61.2	9.5	5	132	141	3		152
060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍（女性器臓器を除く）	4	78.5	26.5	1	1	1			4
060380	ウイルス性腸炎	23	56.2	5.9	9	7	0			23
060390	細菌性腸炎	10	60.4	6.5	3	4	0			10
060391	偽膜性腸炎	2	79.5	12.5	0	1	0			2
060570	その他の消化管の障害	13	67.8	7.8	3	6	0			13
	計	1,606	77.5	15.6	205	723	1,050	95	24	1,487

## 小児科

小児心身医学会認定医

### 1. 概要、特徴、特色

当科は小児の common disease を中心に幅広い疾患に対応しています。重症例や疾患によっては高次医療機関へ対応をお願いする場合がありますが、多くの疾患に対応できるよう各医師が専門性も含め研鑽をつんでいます。入院は急性期疾患の他、食物経口負荷試験や内分泌負荷試験等の検査入院も行っています。当院産婦人科は分娩数も多く、新生児疾患への対応もしていますが、重症の新生児については近隣のNICUへ依頼しています。

当科の特徴として各種の育児支援を積極的に行っています。産前の院内両親学級の講師や祖父母への育児教室、子育ての仲間づくりや育児支援のための子育て教室、看護師・保育士によるベビーマッサージ、栄養士による離乳食教室、ベビータッチを行っています。2018年は不定期開催ですが、子育てcaféも開催しました。

### 2. スタッフ

部長

和泉 桂子 小児科学会認定小児科専門医

科長

荒熊 智宏 専門医機構認定小児科専門医  
小児科学会認定指導医  
小児神経学会認定小児神経専門医  
ICD (感染制御医師)

医長

平澤 薫 小児科学会認定小児科専門医  
プライマリ・ケア連合学会認定指導医  
プライマリ・ケア認定医

医長

藤田 泰幸 小児科学会認定小児科専門医

非常勤

松田文子 (月・金曜日)、小堀勝充 (アレルギー外来)、斎藤陽子 (発達外来)、平井克明 (発達外来)、脇田傑 (循環器外来)、中村明夫 (腎外来)、計6名の非常勤医師の協力を得て外来を行いました。

### 3. 診療実績

#### (1) 外来診療

一般外来の他、各専門外来、乳児健診・予防注射を行っています。紹介患者、救急搬入、急患患者は時間外も随時対応しています。川口市の小児夜間救急診療事業に2次病院として金曜日を担当しています。

専門外来は、アレルギー・発達 (神経)・心理・腎臓・循環器・内分泌/生活習慣病外来を開設しています。アレルギーに関しては気管支喘息・アトピー性皮膚炎などへの対応の他、プリックテストや食物経口負荷試験を外来/入院で実施しています。神経外来は、小児によくあるけいれん性疾患や発達遅滞 (障害) を中心に診察しています。

心理外来は心身症や不登校などに対応しており、医師による診察、心理発達検査の他、臨床心理士によるカウンセリングも行っています。

乳児健診は多職種 (医師、看護師、保育士、管理栄養士) の協力を得て、育児支援に力をいれた形で実施しています。予防接種は同時接種 (1回4本まで) や基礎疾患のある児 (けいれん発作、アレルギーなど) にも対応しています。

- ・小児科外来患者数 年間 延べ19,521人 (小児科紹介患者数 年間 398人 (入院109人))
- ・川口市小児夜間救急 (一次および二次救急) 毎週金曜日 年間 1,026人
- ・乳幼児健診 1ヵ月 525人、3-4ヵ月 365人、6-7ヵ月 255人、9-10ヵ月 189人、1歳 211人、1歳半 328人
- 合計 年間1,873人 (延べ人数)

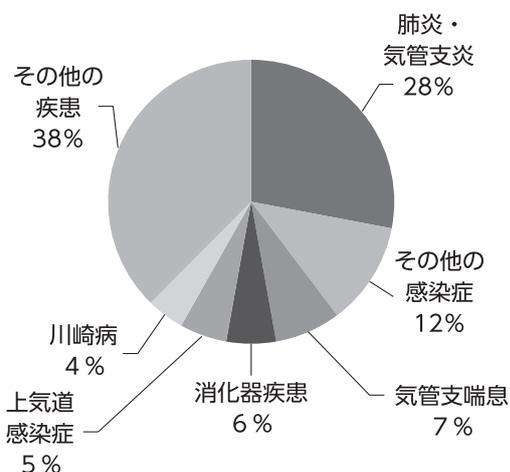
・予防接種 年間 3,920人 (延べ人数)

## (2) 病棟診療

- ・小児科入院ベッド数 15床、小児科入院患者数  
年間 568人 (うち新生児室入院 年間192人)
- ・産科分娩数 年間 549人 (再掲 新生児室入院  
年間 192人)

小児病棟入院 (主病名)：下気道感染症 (気管支炎、細気管支炎、肺炎) 113 (RSV42、hMPV 6、マイコプラズマ 4)、上気道感染症 (中耳炎、鼻炎副鼻腔炎、咽頭扁桃炎、クループ症候群、扁桃炎など) 35人、頸部リンパ節炎 3、伝染性単核症 (EBV) 2、蜂窩織炎 4、インフルエンザ A 1、インフルエンザ B 1、その他発熱 (原因特定できず) 1、急性胃腸炎 21 (ロタ 4、キャンピロバクター 1)、麻痺性イレウス 1、腸重積 2、周期性嘔吐症 10、過敏性腸症候群 1、ケトン性低血糖 21、内分泌負荷試験 5 (低身長 4、汎下垂体機能低下 1、尿管管アシドーシス 1)、食物負荷試験 30、アナフィラキシー 10、アトピー性皮膚炎 1、気管支喘息・喘息性気管支炎 31、川崎病 16、IgA 血管炎 5、好中球減少症 2、多形滲出性紅斑 5、蕁麻疹 2、熱性けいれん 12 (うち重積 3)、胃腸炎関連

入院患者主病名割合 (新生児入院除く)



けいれん 1、無熱時けいれん発作 2、硬膜下膿瘍 1、無菌性髄膜炎 2、薬物加療内服 1、尿路感染症 11、溶連菌感染後急性糸球体腎炎 1、慢性腎炎急性増悪 1、VCUG 検査入院 2、新生児黄疸 10、その他 (体重増加不良 1、異物誤飲 3、育児不安 1、在宅調整目的 1)

## (3) 育児支援活動

- ・「うぶごえ学級 (院内両親教室)」：小児科医 月 1 回担当。
- ・「孫と一緒広場 (祖父母への育児教室)」：年 3 回実施。
- ・ベビーマッサージ：看護師・保育士のマッサージ指導および医師による育児相談。月 1 回。
- ・ベビーランチ：離乳食 (病院が用意する) を食べながら、医師、栄養士と育児相談を行います。月 1 回
- ・子育て教室：生後 6 - 12 ヶ月の児を対象に 1 クール 3 回の教室 (医師や各職種の講演やみんなで遊ぶ等) を行い、そこで子育ての仲間づくりもすすめています。年 2 クール (前期/後期) 実施しています。
- ・子育て Café：医師、看護師、保育士など多職種のスタッフを交えてぎっくばらんにお話。不定期 (2018 年は 2 回開催)

## (4) 外部活動

6 園の園医、2 校の校医を担当しています。市の 3 歳児健診も輪番で担当しています。法人内の川口診療所の依頼により保育園 (1 園) の健診も担当しました。こども保健教室を 1 回実施しました。

## 4. 教育・研修・研究活動

### (1) 教育・研修

- ・日本小児科学会小児科専門医研修施設、日本小児神経学会小児神経専門医研修関連施設。
- 初期研修医 8 名、家庭医後期研修医 2 名が小児科研修を修了しました。

カンファレンスは産婦人科と合同で周産期カンファレンス(月1回)、文献抄読会(週1回)を定期的に行っています。

(2) 学会研究会活動(発表)

- 2/25 藤田泰幸「これまで当科で行ってきた小児カウンセリングのまとめ」第55回埼玉県医学会総会
- 4/20 荒熊智宏「水痘ワクチン定期接種下による一般病院での水痘患者の変化」第121回日本小児科学会学術集会
- 5/31 荒熊智宏「埼玉県南部の急性期病院小児科で経験した非ワクチン株による侵襲性肺炎球菌感染症(IPD)の3例」第92回日本感染症学会学術集会
- 8/4 平澤 薫「当院における小児虐待対策チーム発足1年間の報告」第10回日本子ども虐待医学会学術集会
- 9/8 藤田泰幸「なかなか自傷衝動が制御できず苦慮した思春期女児例」第36回日本小児心身医学会学術集会

(3) 学会研究会活動(論文発表)

- 藤田泰幸「これまで当科で行ってきた小児カウンセリングのまとめ」埼玉県医学会雑誌第53号第1号
- 平澤 薫「軽症胃腸炎関連けいれんに用いたカルバマゼピンが原因と考えた急性尿閉の1幼児例」日本小児救急医学会雑誌 vol.17 No.3

## 外科

### 1. 概要、特徴、特色

当院外科は、消化器一般外科を中心に、肺外科、乳腺外科の診療において、地域の患者様に必要十分の良質で高度な医療を提供すべく、日々の診療に励んでいます。

ここ数年の年間総手術件数（入院手術）は700件弱で推移しておりましたが、2018年は増加し751件でした。急性胆嚢炎に対する緊急手術を積極的に行うようになった結果、胆嚢摘出術の件数が2017年の106件から2018年は149件と大幅に増加しました。急性期の胆嚢炎手術はやや難易度の高い手術ですが、これまでの経験から安全に実施できています。コツをつかめば、慢性炎症のある待機的手術よりも手術が容易だと感じられることもあります。術後の経過もよく、保存的治療を行った後の待機的手術と比べ総治療期間が短縮でき、医療者にとっては緊急手術の負担が増えるものの、患者様にとってはメリットの大きい治療であると考えられ、今後も積極的に実施していきたいと考えています。

腹腔鏡手術実施割合については、2018年は胃切除が48%、大腸切除が52%、肝切除が48%と、胃切除で2017年の26%から増加がみられました。

早期がんや標準的な手術で治療が可能ながんに対しては低侵襲性を考慮した手術を行うとともに、高度進行がんに対しては腫瘍内科医師（非常勤）と協力し、抗がん剤治療後の拡大手術も積極的に行っています。

地域の急性期医療を守る中核病院の外科として、緊急性の高い疾患に迅速に対応すること、また埼玉県がん診療指定病院として専門性の高い疾患に対応することが当院外科には求められていると考えます。今後も地域の皆さんからの期待に答えるべく診療に邁進する所存です。

### 2. スタッフ

院長補佐

井合 哲 日本外科学会外科指導医  
麻酔科標榜医

外科技術部長

市川 辰夫 日本外科学会外科指導医

外科技術部長

長 潔

外科部長

井上 豪 日本外科学会外科専門医

外科医長

浅沼 晃三 日本外科学会外科指導医  
日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医

日本呼吸器学会呼吸器専門医

消化器外科専門医

消化器がん外科治療認定医

日本がん治療認定機構がん治療認定医

日本内科学会認定内科医

日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

麻酔科標榜医

病棟医長

栗原 唯生 日本外科学会外科専門医

消化器外科専門医

消化器がん外科治療認定医

日本肝臓学会肝臓専門医

日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

日本がん治療認定機構がん治療認定医

I C D（感染制御医師）

外科医長

佐野 貴之 日本外科学会外科専門医

消化器外科専門医

消化器がん外科治療認定医

日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡  
専門医

日本がん治療認定機構がん治療認定医  
重吉 到 日本外科学会外科専門医  
日本がん治療認定機構がん治療認定医  
I C D (感染制御医師)

医員

岸本 裕  
松原 浩太

### 3. 診療実績

#### (1) 外来診療

外来患者数

月	1月	2月	3月	4月	5月
患者数	1,175	1,259	1,375	1,296	1,366
月	6月	7月	8月	9月	
患者数	1,461	1,286	1,447	1,235	
月	10月	11月	12月	合計	
患者数	1,475	1,530	1,337	16,242	

#### (2) 手術

埼玉協同病院外科 手術実績	2015		2016		2017		2018	
	手術件数	うち鏡視下	手術件数	うち鏡視下	手術件数	うち鏡視下	手術件数	うち鏡視下
入院手術総数 (手術室施行)	677	261	656	287	685	282	751	317
主な手術								
肺切除	20	10	27	14	18	15	21	13
悪性								
部分切除	5	2	7	3	6	6	10	7
葉切除	9	2	12	3	4	1	7	2
良性								
部分切除	2	2	1	1	3	3	2	2
気胸	4	4	7	7	5	5	2	2
その他の胸部手術			3		1		2	1
悪性			1				1	1
良性			2		1		1	
食道切除	2		5		3			
悪性	2		5		3			
良性								
胃切除	41	9	31	12	38	10	29	14
悪性								
胃全摘	16	2	6		11	3	6	1
幽門側切除	22	4	17	8	21	5	19	10
その他	2	2	7	4	4	1	3	2
良性								
幽門側切除			1					
その他	1	1			2	1	1	1

### 4. 教育・研修・研究活動

#### (1) 教育・研修

当院は、日本外科学会専門医制度修練施設、日本消化器外科学会関連施設、呼吸器外科学会呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医制度関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設になっています。

#### (2) 研究活動

・栗原唯生

「皮下結節 (皮下結節性脂肪壊死症) を契機に発見された膵腺房細胞癌の1例」

第49回日本膵臓学会大会 和歌山 6月29日～6月30日

「当院における腹腔鏡下虫垂切除時の虫垂根部処理方法の検討」

第31回日本内視鏡外科学会総会 福岡 11月6日～11月8日

大腸切除	94	45	111	58	96	46	89	46
悪性								
結腸切除	63	28	69	38	64	32	61	31
直腸切除	24	13	29	18	20	13	15	7
良性								
結腸切除	6	3	12	2	10	1	12	7
直腸切除	1	1	1		2		1	1
小腸切除	19	2	9		20	4	23	
悪性	5	1	2		4	2	3	
良性	14	1	7		16	2	20	
その他の手術	250	67	203	57	233	65	254	74
ヘルニア手術	158		123		125		143	
虫垂炎手術	56	55	56	54	53	50	63	62
イレウス	25	6	12	1	25	6	15	2
うち、小腸・結腸切除（再掲）	(14)	(2)	(6)	(1)	(8)	(3)	(9)	
腸穿孔・腹膜炎手術	11	6	12	2	30	9	33	10
うち、がんによるもの（再掲）			(3)	(1)	(3)	(1)	(3)	
肝切除	18	2	25	12	35	15	27	13
悪性								
部分切除および外側区域切除	7	2	16	12	19	12	18	10
上記以外の切除	10		8		16	3	9	3
良性								
部分切除および外側区域切除			1					
その他の切除	1							
膵切除（胃切除に伴うものを除く）	13	2	12	1	15	3	19	4
悪性								
膵頭十二指腸切除	9		6		7		9	
膵体尾部切除	2		4		6	1	6	1
膵全摘							1	
良性								
膵体尾部切除	2	2	2	1	2	2	3	3
胆嚢摘出	98	96	125	121	106	105	149	149
乳腺	51		42		66		60	
悪性								
乳房切除	18		12		18		24	
乳房部分切除	27		26		43		31	
良性								
腫瘍摘出	6		4		5		5	

## ・佐野貴之

「当院における胃GISTに対する、鏡視下手術  
症例の検討」

第31回日本内視鏡外科学会総会 福岡 11月  
6日～11月7日

他院からの紹介	件数	(法人内)
外来	354	35
入院（外来後入院含む）	101	30

消化器外科学会修練施設		手術難易度	
難易度	件数	割合	
高難度	44	8.0%	
中難度	161	29.2%	
低難度	347	62.9%	
計	552		

## 乳腺外科

### 1. 概要、特徴、特色

日本において女性のがん罹患率で乳がんが1位となっており、11人に一人が乳がん罹患しています(2013年データ)。また、社会においても家庭においても重要な役割を果たしている40歳から50歳の年代にもっとも罹患が増えています。乳がんの治療は手術だけではなく、薬物療法、放射線療法と複合的に行っていくため、通院頻度や金銭面での負担がかかってきます。そこで自宅近くでも安心して治療が受けられるように、当院で乳腺外来を立ち上げ、診療を行っています。

#### (1) 紹介

乳腺疾患に必要な設備を整え、乳腺疾患の精査から治療まで行っています。特に乳がん患者様の診断から治療までかわることにより、精神面のフォローや社会的背景を考慮しながら診療を行えるように、コメディカルとの連携を図っています。

\*当院に放射線治療施設がないため、放射線治療が必要な症例に対しては近医への紹介を行っています。

### 2. スタッフ

科長 金子しおり 日本外科学会外科専門医  
日本乳癌学会認定医  
日本がん治療認定医機構  
がん治療認定医

### 3. 診療実績

#### (1) 検査・手術

下表参照

診療実績 (診断群分類6桁別、2018年退院患者)

\*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術 あり 症例*	計画的 繰り返し入院	その他 の加療
090010	乳房の悪性腫瘍	85	60.2	6.0	1	27	53	25	60
090020	乳房の良性腫瘍	4	43.8	2.8	0	1	4		4
	計	89	59.5	5.8	1	28	57	25	64

#### 検査件数

検査	件数
乳房超音波	2,211
乳腺生検	178
乳腺穿刺	176
乳房超音波ガイド下生検	169
USマンモトーム	0
STマンモトーム	5
乳房MRI	76

#### 手術件数

行為名称	件数
乳腺腫瘍摘出術 (長径5センチメートル未満)	1
乳腺腫瘍摘出術 (長径5センチメートル以上)	3
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術 〈腋窩部郭清を伴わないもの〉)	26
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術 〈腋窩部郭清を伴わないもの〉)	17
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術〈腋窩部郭清を伴うもの〉〈内視鏡下によるものを含む〉)	3
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術〈腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの〉・胸筋切除を併施しないもの)	4
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術〈腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの〉・胸筋切除を併施するもの)	2
計	56

## 4. 教育・研修・研究活動

## (1) 教育・研修

病棟カンファレンス	毎週月曜日	入院患者のカンファレンス
乳腺がんサージカルボード	毎週水曜日	腫瘍内科医を中心に薬物療法の治療方針(術前、術後、再発)を検討。術式の検討、全身状態のチェックなどを行う。患者対応や緩和ケアなども検討していく。
画像カンファレンス	毎週1回	病理医・放射線技師・臨床検査技師とともに病理及び画像検討。
乳腺科診療チーム会議	毎月1回	乳腺診療の運営について他職種と検討していく。

## (2) 研究

- ①抗がん剤によるサイトリスクマネジメント
- ②タキサン起因性末梢神経障害に対する弾性ストッキングによる予防効果の検証

## 整形外科

### 1. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院の整形外科は地域の基幹病院の一つとしてレベルの高い医療を提供できるよう、今後もますます診療体制を充実させてまいります。

診療体制は仁平部長以下5名の常勤医師と、13名の非常勤医師が診察にあたります。慶應義塾大学からは腫瘍、脊椎、関節外科、上肢の専門医が勤務にあたり、それぞれの専門分野を中心に外来診療・手術を行っております。

2008年10月1日より、人工関節、股関節外科を当病院整形外科のメインテーマとしてかかげ、最新のコンピューター支援手術器械であるナビゲーション手術システムを導入しました。人工関節手術実績は2008年の13件から2017年の601件まで増加が著しく、国内でも有数の症例数となっております。

2018年4月1日から関節治療センターを開設しました。

関節治療センターでは人工関節手術とともに、手術によらない新しい関節治療である再生医療を二本の柱として治療してまいります。膝・股関節の人工関節手術は21世紀において最も成功した手術と言われ、安全性・確実性に優れた手術です。その中でも当院では、更なる正確性を目指し、ナビゲーションシステムをはじめ、3D骨モデルの作成など全国に先駆けた最先端の技術を導入し、国内でも有数の症例数を誇る、全国から手術研修の医師が来られる病院に成長いたしました。また、関節治療に対する再生医療は、厚生労働省の認可が必要であり、脂肪・血液(PRP)・軟骨を利用して、関節痛を改善させる3つの再生医療を提供できる総合病院は極めて希少です。患者満足度の高い手術治療、更に、手術によらない新しい関節治療である再生医療も先駆的に導入し、全ての関

節痛の患者様にご満足いただけるセンターを目指してまいります。

関節痛で悩まれる方は全国に1,000万人以上、潜在的に軟骨が減少されている方は3,000万人ともいわれて、下肢の関節症は国民病とも言われております。痛みがある生活は動作に支障を来し、気持ちもネガティブになります。我々はそんな関節痛を少しでも改善させるお手伝いを様々な角度からできないかと、この度、関節治療センターを設立致しました。人工関節のみ、再生医療のみを薦めるのではなく、患者様の意思、ライフスタイルも尊重し、より多くの治療選択ができる機関を目指しております。

人工関節手術は、患者様に寄り添い、喜んでいただけるよう、低侵襲で正確な手術、痛みのない手術にも力を入れて取り組んでおります。手術というと沢山の心配はあるかと思いますが、変形のない新しい脚で痛みなく生活できる喜びは、清水の舞台を飛び降りだけの価値がある治療です。再生医療も、多くの選択肢がご提示できるよう、脂肪由来幹細胞移植やPRP治療(多血小板血漿療法)など取り揃えております。関節変形の進行予防に、また手術に躊躇されている方にも、関節の炎症を改善し、痛みの大幅な軽減が期待できる新たな治療です。

日本整形外科学会専門医研修認定施設

日本リウマチ学会教育施設

### 2. スタッフ

部長

仁平高太郎 日本整形外科学会整形外科専門医  
日本リウマチ学会リウマチ専門医  
日本整形外科学会運動器リハビリテーション医  
日本整形外科学会認定スポーツ医  
日本整形外科学会認定リウマチ医  
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

## 副部長

桑沢 綾乃 日本整形外科学会整形外科専門医  
日本リウマチ学会リウマチ専門医  
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医  
日本整形外科学会認定スポーツ医  
日本整形外科学会認定リウマチ医

## 病棟医長

北村 類 日本整形外科学会整形外科専門医  
日本整形外科学会認定リウマチ医  
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医

## 医長

遠藤 大輔 日本整形外科学会整形外科専門医

## 医員

小林 啓郎 日本整形外科学会整形外科専門医  
日本整形外科学会認定スポーツ医  
日本整形外科学会認定リウマチ医  
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

楊 宝峰

## 非常勤

森岡 秀夫 日本整形外科学会専門医  
日本整形外科学会認定リウマチ医  
日本リウマチ学会リウマチ専門医  
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

小粥 博樹 日本整形外科学会専門医  
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

岡崎 真人 日本整形外科学会整形外科専門医  
日本手外科学会専門医

## 3. 診療実績

次頁表参照

## 4. 教育・研修・研究活動

## (1) 教育・研修

モーニングカンファレンス (週3回)

病棟カンファレンス (週1回)

## (2) 学会発表、論文発表、講演

- ・仁平高太郎  
「Challenge for ZERO Complications – 人工関節置換術における合併症低減の工夫とデバイスの役割 –」  
第48回日本人工関節学会 ランチョン・セミナー 11 東京 2018年2月24日  
「形成不全性 OA に対するセメントレスでの cup 設置では bulk bone graft は必要か」  
日本人工関節学会誌 第48巻 9 – 10 2018年12月  
「RAO 後の THA では高率に鼠径部痛が発生する」  
日本人工関節学会誌 第48巻 585 – 586 2018年12月
- ・桑沢綾乃  
「人工関節手術の術後トラブルゼロ、満足度100%を目指して」  
第48回日本人工関節学会 ランチョン・セミナー6 東京 2018年2月23日  
「Oxford UKA における高圧炭酸ガス洗浄 (CarboJet) を使用したセメントテクニクの有用性 脛骨側セメント充填深度と術後 radiolucent line の検討」  
JOSKAS 第43巻 第3号 799 – 805 2018年6月  
「外反骨切り後の THA」  
Hip Joint 第44巻 第1号 66 – 71 2018年8月  
「TKA・THA 同時手術の治療経験」  
日本人工関節学会誌 第48巻 421 – 422 2018年12月  
「関節縫合と barbed suture 膝の関節縫合部はどの位伸びるか？」  
日本人工関節学会誌 第48巻 705 – 706 2018年12月

診療実績 (診断群分類6桁別、2018年退院患者)

\*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例*	診断 検査	計画的 繰り返 し入院	その他 の加療
07040x	股関節骨頭壊死、股関節症 (変形性を含む)	337	65.9	21.3	2	111	335			337
070230	膝関節症 (変形性を含む)	219	72.7	31.0	0	78	218		1	218
160800	股関節大腿近位骨折	106	79.0	32.2	31	59	100		2	104
070343	脊柱管狭窄 (脊椎症を含む)、腰部骨盤、不安定椎	106	72.4	13.3	3	38	54	48		58
160760	前腕の骨折	52	62.7	3.1	2	35	51		8	44
160850	足関節・足部の骨折、脱臼	41	50.7	15.9	3	29	40		9	32
160700	鎖骨骨折、肩甲骨骨折	35	55.8	4.7	2	23	35		8	27
160740	肘関節周辺の骨折・脱臼	34	43.8	4.3	0	27	34		7	27
070350	椎間板変性、ヘルニア	34	54.7	13.9	4	14	29	1		33
070341	脊柱管狭窄 (脊椎症を含む) 頸部	25	70.5	31.2	0	9	17	7		18
180040	手術・処置等の合併症	22	73.9	57.1	2	14	22			22
160820	膝関節周辺骨折・脱臼	20	66.2	29.4	1	12	20		4	16
160720	肩関節周辺の骨折脱臼	16	76.4	6.3	0	12	16			16
160835	下腿足関節周辺骨折	13	60.4	26.2	3	7	13		4	9
160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷 (胸・腰髄損傷を含む)	12	60.7	27.0	2	4	7	1		11
160620	肘、膝の外傷 (スポーツ障害等を含む)	12	55.6	8.9	0	2	11			12
07010x	化膿性関節炎 (下肢)	9	60.8	38.8	1	3	7			9
160780	手関節周辺骨折脱臼	9	47.9	2.9	0	6	9			9
071030	その他の筋骨格系・結合組織の疾患	9	75.9	54.7	2	4	9			9
070610	骨折変形癒合、癒合不全などによる変形 (上肢)	7	50.1	3.4	0	6	7			7
070470	関節リウマチ	7	71.6	32.9	0	2	7			7
070395	壊死性筋膜炎	6	65.7	63.3	1	2	5			6
070010	骨軟部の良性腫瘍 (脊椎脊髄を除く)	6	63.3	6.2	0	5	5			6
050170	閉塞性動脈疾患	6	73.5	39.5	0	5	5	1		5
160980	骨盤損傷	5	73.4	38.8	1	4	2			5
070330	脊椎感染 (感染を含む)	5	71.6	34.8	1	2	3			5
070160	上肢末梢神経麻痺	5	67.0	3.4	0	2	5			5
070040	骨の悪性腫瘍 (脊椎を除く)	5	75.4	40.6	3	2	4		1	4
	その他の傷病	66			3	28	50	0	4	
	計	1,229	66.9	22.4	67	545	1,120	58	48	1,061

5. その他

が行われています。

股関節疾患と膝関節疾患に関して患者会がそれぞれ存在します。年に数回、患者会メンバーを中心に、医師による疾患の理解を深めるための講演

手術	2018
術式	件数
人工股関節置換術	431
人工股関節再置換術	12
人工膝関節置換術	326
人工膝関節再置換術	4
その他の関節手術	10
脊椎固定術	91
椎間板摘出術	27
脊椎悪性腫瘍手術	3
骨折観血的手術	203
人工骨頭挿入	62
四肢切断	11
靭帯断裂手術	1
骨切り術	3
神経剥離術・神経移行術	6
その他の手術	190
計	1,380
他院からの紹介	1,275
外来	914
入院（外来後入院含む）	361

## 脳神経外科

### 1. 概要、特徴、特色

2017年4月1日から、石丸が常勤医として勤務させていただいており、2年経過しました。外来診療のみですが、脳卒中救急に関する相談や、病棟での脳卒中・頭部外傷患者さんのコンサルテーションに対応しました。

「椎骨動脈解離」の症例が多く、2年目研修医の井上医師が埼玉医学会総会で発表されています。脳梗塞急性期のt-P Aによる血栓溶解療法に関しては、南部MCの連携病院として参加しております。脳卒中救急はたくさん受けていただいておりますが、t-P A施行例はまだありません(石丸はiPadを常時携帯して、脳卒中画像のコンサルテーションをしています)。

慢性硬膜下血腫の手術適応患者さんは、済生会川口総合病院などに転送させていただいておりますが、外来での保存的治療・経過観察例も結構あります。

2018年9月に頭痛学会の専門医を取得致しました。

ボトックス治療は、顔面けいれん・眼瞼けいれんに対して施行しています。脳卒中後遺症の上下肢痙縮を対象とした施術も計画しています。

日本脳卒中学会教育研修病院(2017年12月から)

埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク(SSN)、南部MCの連携病院(2017年12月から)

### 2. スタッフ

部長

石丸 純夫 脳神経外科学会専門医

脳卒中学会専門医

リハビリテーション学会認定臨床医

頭痛学会専門医

非常勤

須田喜久夫 済生会川口総合病院脳神経外科主任部長

脳神経外科専門医

脳卒中専門医

井出 光信 脳神経外科専門医

### 3. 診療実績

#### (1) 外来診療のみです

脳外科外来患者数：年間 2,412人

(脳外科紹介患者数：年間 131人)

外来でのボトックス治療件数 15件

#### (2) 外部活動

健康まつりでの講演

「脳卒中について」11月3日

### 4. 教育・研修・研究活動

#### (1) 教育・研修

- ・毎週火曜日7時からの救急症例検討会に参加。
- ・毎週木曜日14時からのD5病棟リハビリテーションカンファレンスに参加させていただいております。
- ・毎週水曜日16時からの脳卒中急性期入院リハビリの検討会に参加。
- ・5月から8月まで、研修医対象に隔週の金曜日7時30分から、脳疾患画像のレクチャーを7回施行。

#### (2) 研究

今年度は、学会研究会活動(発表)はありません。

## 産婦人科

## 1. 概要

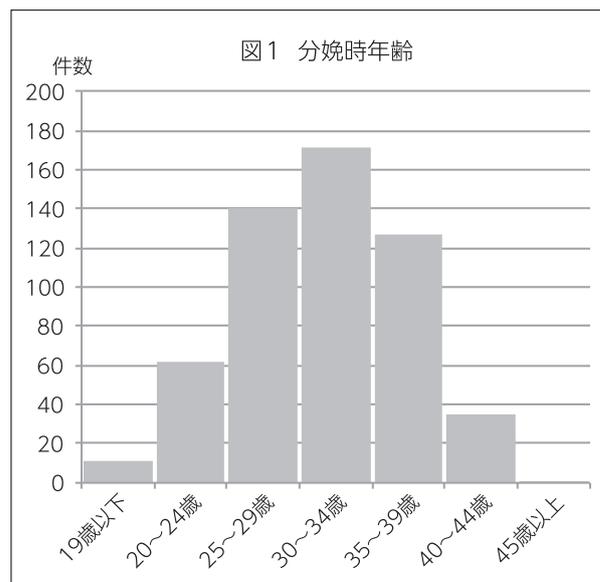
常勤医師1名が専攻医研修のため自治医科大学さいたま医療センターへ出向し、4名の常勤医師で医療活動を維持してきた1年でした。当院初期研修2年目の医師より産婦人科専攻の意志表示があり、2019年度から新たに研修プログラム基幹病院として連携させていただいた東京女子医科大学東医療センターで研修を開始できるよう準備を進めました。

分娩数は近隣産科診療所閉所の影響もあり、やや増加し549件でした(表1)。年齢分布は30代前半が増加し、近年高齢妊娠・出産のリスクが周知されてきたことが影響しているのか傾向を見極めていく必要があります(図1)。合併症としては

表1 分娩数と出産年齢および合併症

年代別分娩数	2018年
19歳以下	11
20~24歳	62
25~29歳	141
30~34歳	172
35~39歳	127
40~44歳	35
45歳以上	1
計	549
帝王切開	113
合併症妊娠	
子宮筋腫	19
精神疾患	51
甲状腺疾患	13
高度肥満	8
糖尿病	2
HDP	29
GDM	38
円錐切除後頸管縫縮	4

精神疾患の比率が51例9.3%と高く、精神科と連携して母児の支援に努めました。妊娠糖尿病症例は38例6.9%、そのうち約4分の3の28例はインスリンを使用しました。内科の協力も得ながら管理し、産後の耐糖能まで評価することで将来の糖尿病発症リスクを自覚していただくよう努めました。社



会的ハイリスク妊娠の症例は、保健センター・子育て支援課・生活福祉課などと連携し対応してきました。この分野では様々なところで取り上げられた1年でした。個々の症例では支援の限界を感じることもあり、様々な背景を正確な数値で把握することも不十分です。今後、実態を把握できるようカルテ記録の整備を検討中です。

母体搬送は8件で、川口市立医療センターに受けていただくことが多く、コーディネーターシステムで搬送先を探していただいたのは3件でした。地域全体の周産期事情も厳しく、早産を回避するため頸管縫縮術や切迫早産の入院管理などが多くなっています(表2)。

表2 母体搬送の週数および紹介先

母体搬送	週数	8
	~22週	1
	23~27週	1
	28~31週	1
	32~34週	4
	35週以上	1
	搬送先	
	川口医療センター	5
	埼玉医科大学総合医療センター	1
	越谷市立病院	1
	東京女子医科大学東医療センター	1

出生前診断については、NIPTが産科婦人科学会の指針で臨床研究から一般診療へと移行し、他の選択肢（超音波精査やクワトロテスト等）も広がり、紹介なしで検査を受ける方も増加し、数の把握が困難となっています。NIPTは、学会認可外の施設の中にはカウンセリングなく採血し結果を電話や郵送で通知するところもあり、安易に受けた結果に動揺する方もいらっしゃいます。紹介患者様の中には、カウンセリングの結果検査

表3 出生前診断紹介数

出生前診断		11
羊水検査		1
クワトロテスト		3
NIPT		7

表4 手術

入院・手術室施行 (帝王切開除く)	181	うち紹介51
子宮筋腫	51	(帝切時7含む)
卵巣腫瘍・含内膜症 (うち腹腔鏡)	42 (3)	
異所性妊娠 (うち腹腔鏡)	4 (1)	(併1)
頸部異形成・上皮内がん	39	
子宮脱	4	
子宮頸管縫縮術	17	(併1)
その他	24	

流産手術13

表5 ホルモン療法患者数

低用量ピル	3ヵ月以上
トリキュラー	27
ルナベル・フリウェル	146
計	173
エストラーナテープ	110
メノエイドコンビパッチ	32
ディナゲスト	13
ミレーナ (IUS)	42
GnRH	3ヵ月以上
リュープリン	37
ナサニール	60

を受けなかった方もいるため、検査の持つ意味と限界等につき理解して判断していただくことは重要です。今後は出生前診断の希望がある場合は、適切な施設で受けることの大切さを伝えつつ、受診者の把握を確実にし、検査に伴う不安にも応えていく必要があると考えています。(表3)。

表6 がん検診

子宮頸部	5,342
NILM	5,268
ASC-US	37
ASC-H	1
LSIL	21
HSIL	13
AGC	1
SCC	0
子宮体部	3,850
陰性	3,706
疑陽性	11
陽性	1
材料不適	132

手術については181件で、子宮筋腫手術が減少傾向です。これは過多月経に対するの保存的治療の選択肢が増えたことに加え、腹腔鏡での手術を希望される方が増加したため、他院への紹介が増えていることが要因と考えられます(表4)。子宮内膜症・月経困難・過多月経につ

表7 悪性腫瘍紹介数

紹介先	例数
獨協医科大学埼玉医療センター	10
国立がん研究センター中央病院	6
がん・感染症センター都立駒込病院	6
埼玉県立がんセンター	4
自治医科大学附属さいたま医療センター	4
がん研有明病院	4
帝京大学医学部附属病院	3
慶應義塾大学病院	2
東京大学医学部附属病院	2
川口市立医療センター	1
順天堂大学医学部附属順天堂医院	1
悪性腫瘍	例数
子宮体がん	20
卵巣がん	12
子宮頸がん	10
子宮肉腫	1
総計	43

いては、低用量ピル・IUS・黄体ホルモン製剤に加え、2019年以降は消退出血を回避するタイプの低用量ピルの採用も決定しました(表5)。

子宮がん検診施行数は増加傾向です(表6)。悪性腫瘍については紹介が多くなっていますが(表7)、紹介先での通院化学療法中の補助療法を当院で行いながら、闘病の支援を継続した患者様もいらっしゃいました。今後も地域の女性の一生を支える医療を続けていくために、後継者の育成にも努めていきたいと考えています。

## 2. スタッフ

### 部長

市川清美 日本産科婦人科学会産婦人科専門医  
検診マンモグラフィ読影認定医師  
母体保護法指定医  
日本母体救命システム普及協議会  
ベーシックコースインストラクター  
PCキューブ受講  
新生児蘇生法講習会Aコース受講  
ALSOプロバイダーコース受講

### 副部長

榎本明美 日本産科婦人科学会産婦人科専門医  
日本専門医機構産婦人科専門医  
新生児蘇生法講習会Aコース受講

### 副部長

芳賀厚子 日本産科婦人科学会産婦人科専門医  
日本専門医機構産婦人科専門医  
日本産科婦人科学会専門研修指導医  
日本臨床細胞学会細胞診専門医  
母体保護法指定医  
日本母体救命システム普及協議会  
ベーシックコース修了  
新生児蘇生法講習会Aコース受講

### 医員

伊藤浄樹 日本産科婦人科学会産婦人科専門医  
日本専門医機構産婦人科専門医  
ALSOプロバイダーコース受講

李 冬平 新生児蘇生法講習会Aコース受講  
非常勤

竹内育代 日本産科婦人科学会産婦人科専門医  
岡野滋行 日本産科婦人科学会産婦人科専門医  
日本臨床細胞学会細胞診専門医

鎌田美保 日本産科婦人科学会産婦人科専門医  
上野紀子 日本産科婦人科学会産婦人科専門医  
藪田直樹

池谷幸太郎 日本産科婦人科学会産婦人科専門医  
(3月まで)

堀内 功 日本産科婦人科学会産婦人科専門医  
(自治医科大学さいたま医療センターより当直支援)

鈴木由梨奈 日本産科婦人科学会産婦人科専門医  
沼口正英 日本産科婦人科学会産婦人科専門医

### 嘱託

神谷 稔 日本産科婦人科学会産婦人科専門医  
矢口輝仁 日本産科婦人科学会産婦人科専門医

## 3. 診療実績 (193～194頁参照)

表1 分娩数と出産年齢および合併症

図1 分娩時年齢分布

表2 母体搬送の週数および紹介先

表3 出生前診断紹介数

表4 手術

表5 ホルモン療法患者数

表6 がん検診

表7 悪性腫瘍紹介数

## 4. 教育・研修・研究活動

定例カンファレンス(周産期1回/月 周産期メンタルヘルス1回/月 術前2回/月 病棟1回/週)

### (1) 学術活動

・「産婦人科に於ける乳腺検診及び乳腺外科との院内連携」

第2回プレストカンファレンス 2018年3月8日 講演者 市川清美

- ・「当院における2015年初診妊婦の全体像と社会的背景についての考察」  
第70回日本産科婦人科学会学術講演会  
2018年5月12日ポスターセッション  
発表者 芳賀厚子
- ・「分娩後雷鳴様頭痛を発症し、可逆性脳血管攣縮症候群 (reversible cerebral vasoconstriction RCVS) と診断された1例」  
埼玉産科婦人科学会雑誌 第48巻2号 p.70-76、  
2018 (平30、9月)  
投稿者 李 冬平
- ・この病院で「産んでよかった」埼玉協同病院だより  
「ふれあい」春号 No.13 2018年3月  
英岡和香子看護長
- ・お産の「その先」まで見据えた支援を 埼玉協同病院だより  
「ふれあい」夏号 No.14 2018年6月  
伊藤浄樹
- ・充実のセカンドステージを迎えるために。  
「けんこうと平和」No.317 2018年8月  
矢口輝仁

## (2) 社会的活動

- ・「うぶごえ学級」、「孫と一緒にひろば (祖父母の育児支援)」、「命の授業」
- ・「子ども・若者の生きづらさに大人はどう寄り添っていくか〜産婦人科医からみえてくるもの〜」 埼玉協同して子育てを進める交流会  
2018年1月28日  
講演者 芳賀厚子
- ・「卒後3年目の皆様へ 女性と子どもの貧困からみえてくる私たちの課題」  
医療生協さいたま 看護職員卒後3年目研修  
2018年6月1日  
講演者 芳賀厚子
- ・「看護学生の方へ 女性と子どもの貧困からみえてくる私たちの課題」  
勤医会東葛看護専門学校学生学習会 2018年  
10月24日  
講演者 芳賀厚子
- ・「女性と子どもの貧困 私たちに求められている医療とは？」  
第48回医師部会総会 2018年10月27日  
講演者 芳賀厚子
- ・「母子のいのちに寄り添う支援」民医連新聞  
2018年5月21日
- ・「子どもを虐待から守りたい いのちをつなぐ 埼玉協同病院のとりくみ」  
新婦人新聞 2018年8月2日

## 泌尿器科

### 1. 診療実績

2019年3月現在、常勤医師は勤務しておりません。非常勤医師により支援をいただき、外来診療を実施しております。

月	1月	2月	3月	4月
患者数	964	988	1,119	921
月	5月	6月	7月	8月
患者数	1,046	953	1,005	1,068
月	9月	10月	11月	12月
患者数	929	1,041	975	898
			合計	
			11,907	

1日平均外来受診人数：41人

## 皮膚科

内田 秀昭

竹内 周子

### 1. 概要、特徴、特色

皮膚科には常勤医1名、非常勤医8名が勤務しており、皮膚科としては県南最大規模の病院のひとつです。この9名で平日午前中と金曜日午後の一般診療を担当し、平日午後には手術や予約診療を行っています。

当科では通常の皮膚疾患をしっかりと診断し治療することを基本方針として診療をしています。

診療疾患は多岐にわたるため、各種血液検査や病理検査に加えて、皮膚エコーやMRI、CTなどの画像診断を有効に使い、まず確定診断を正確に行うことを目標としています。治療は通常の内服療法、外用療法その他、手術療法や紫外線治療(UVA、UVB)、一部の生物製剤治療も取り入れ、効果をあげています。

また、外来にはQスイッチアレキサンドライトレーザーがあり、健康保険診療としては太田母斑や異所性蒙古斑に、自費診療としては老人性色素斑に著効しています。

基本的に健康保険診療で治療していますが、いくつかの自費診療を取り入れており、患者様のQOL向上に有益と考えています。

### 2. スタッフ

部長

伊藤 理恵 日本皮膚科学会認定専門医  
指導医、医学博士

非常勤

田中 純江 日本皮膚科学会認定専門医  
六波羅詩穂 日本皮膚科学会認定専門医  
上田 周 日本皮膚科学会認定専門医  
関 詠姿 日本皮膚科学会認定専門医  
笹平 摂子 日本皮膚科学会認定専門医  
高濱 英人 日本皮膚科学会認定専門医

### 3. 診療実績

#### (1) 外来診療

平日午前中は2～3人体制で、金曜日午後は1診体制で一般外来を行っています。平日午後は予約制で診療、手術、処置、美容関係の自費診療などを行っています。

2018年の皮膚科延べ外来受診数は19,700名であり、1日平均外来受診人数は69名でした。受診内容は湿疹アトピー性皮膚炎群、皮膚細菌感染症、真菌感染症、ウイルス性皮膚疾患、尋常性瘡瘡、自己免疫性皮膚疾患、熱傷、各種爪疾患、良性悪性皮膚腫瘍など多岐にわたっています。

月	1月	2月	3月	4月
患者数	1,435	1,495	1,807	1,622
月	5月	6月	7月	8月
患者数	1,738	1,721	1,774	1,778
月	9月	10月	11月	12月
患者数	1,438	1,763	1,536	1,593
	合計			
	19,700			

#### (2) 手術

毎週月曜日、水曜日、金曜日の午後に行っています。2018年の手術件数は273件で、局所麻酔下での手術が主体です。9割以上が日帰り外来手術ですが、入院手術も受けています。内容は表皮嚢腫、脂肪腫、母斑などの良性腫瘍切除術が多く、陥入爪根治術、皮膚悪性腫瘍切除術などが続きます。

#### (3) 紫外線治療

当科には長波長紫外線治療器(PUVA、UVB)とナローバンド中波長紫外線治療器(エキシマライト)があり、尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、掌蹠膿疱症などに対して光線治療を行い、良好な効果をあげています。

#### 〈自費診療部門〉

大部分は一般診療中に施行していますが、イオン導入とケミカルピーリングは木曜日と金曜日の午後に予約にて施行しています。

- ①アンチエイジングを目的としたレーザー治療  
(年間約 136 件) やイオン導入、ケミカルピーリング (年間約 69 件)、美白剤の処方など
- ②男性型脱毛症への内服治療
- ③円形脱毛症などに対する局所免疫療法 (S A D B E 治療)
- ④陥入爪への超弾性ワイヤーによる矯正治療
- ⑤ピアスホール作成

などを施行しています。

#### 4. 教育・研修

##### (1) 教育・研修

水曜日の外来診療後に臨床カンファレンスを行っています。当院は皮膚科専門医の一般研修施設です。希望があれば初期研修医及び後期研修医の皮膚科研修も受け入れています。

## 眼科

### 1. 概要、特徴、特色

外来は2018年4月から常勤医1名体制ですが、非常勤として3回/週は帝京大学からの派遣医師も担当しています。

診療内容が多岐にわたるため基本的な一般検査一式だけでなく、OCT・エコーなどの画像診断や各種血液検査も併用し、幅広い眼科全般の診察(角膜疾患、白内障、緑内障、糖尿病網膜症・加齢黄斑変性症・RVOなど網膜疾患)に対応しております。特に専門である緑内障に関しては、より詳細な診療を行っています。また、神経眼科や頭頸部疾患の境界領域に対しても、脳外科・耳鼻咽喉科などと連携し、CT・MRIなどの画像診断を通じて、可及的速やかに対応できるようにしております。その他の全身疾患に関しても、他科と積極的に連携し、早期発見・早期治療を目指しています。

当院で対応が難しい各疾患に対しては、それぞれの専門医が在籍の各連携施設にご紹介いたします。2018年6月からはパターンレーザーを導入し、レーザー治療も始めました。

さまざまな調整のため時間がかかりましたが、2019年2月からは診療体制が整いつつあります。現在までのところ(開始に向けて準備中でしたが)、病院の都合により遅くなっていた手術もまもなく再開できる状態になってきました。

今後は白内障だけでなく、より専門的な緑内障などの内眼手術を行う予定です。

### 2. スタッフ

部長

太根 伸浩 日本眼科学会専門医 医学博士  
身体障害者福祉法指定医  
日本緑内障学会会員

非常勤

近藤 尚明  
酒井 浩之  
坪井 隆政  
寺内 岳  
矢倉 和磨  
渡邊恵美子

### 3. 診療実績

#### (1) 外来診療

月・水曜日は2人体制、その他は1診療体制で外来診療を行っています(現在は木曜日のみ休診となっておりますが、今後、診療再開の予定です)。

午後は、視野など含め検査やレーザー治療などを中心に行っています。

#### 外来患者数

月	1月	2月	3月	4月
患者数	565	665	608	685
月	5月	6月	7月	8月
患者数	676	807	714	748
月	9月	10月	11月	12月
患者数	652	789	665	714
				合計
				8,288

#### (2) 手術(観血的)

現在は、毎週月曜日に抗VEGF抗体硝子体注射を中心に行っています。今後、白内障・緑内障などを中心に手術を開始することになっています。特に緑内障に関しては、最近注目されてきている「より負担の少ない最小侵襲緑内障手術(MIGS)」も積極的に行う予定です。準備が整いましたら、改めてご連絡させていただきます。

規模的制約があるため、角膜(内皮)移植や硝

術式	症例数(延べ)
硝子体注射	49
レーザー	90

子体手術などのより専門的で高度な設備が必要なケースは、各疾患の専門医が在籍している連携機関（大学病院など）にご紹介しています。

#### 4. 教育・研修・研究活動

今年度は、教育・研究活動は特にありません。教育・研修として、スタッフを含め東京都・埼玉県など近隣の教育・研修会などに積極的に参加しています（現在は、診療体制などの構築を最優先としています）。

## 耳鼻咽喉科

高気圧環境酸素治療学会専門医

### 1. 概要、特徴、特色

2018年3月までは毎日2名ずつの非常勤医が外来のみ勤務しておりましたが、2018年4月からは越智が常勤医として赴任しました。全身麻酔下の手術をはじめ新たに多くの診療行為をスタートしました。以下に列挙します。

- ①全身麻酔下の手術およびそれに関わる入院：  
内視鏡下鼻副鼻腔手術（副鼻腔炎の手術）、内視鏡下鼻中隔矯正術、内視鏡下下鼻甲介手術、内視鏡下鼓膜形成術（慢性中耳炎の手術）、内視鏡下鼓室形成術、鼓膜換気チューブ挿入術、口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術、声帯ポリープ摘出術（直達鏡によるもの）、頸部リンパ節摘出（生検）術、気管切開術、気管孔狭窄開大術（外科との連携によって行った新たな手術）：  
甲状腺半切術、耳下腺腫瘍手術、嚥下防止術（重度の誤嚥に対するもの）
- ②局所麻酔下の手術：  
鼻茸切除術、下鼻甲介粘膜下組織焼灼術（アレルギー性鼻炎の手術）、鼻出血に対する焼灼術、下口唇嚢胞摘出術、扁桃周囲膿瘍切開排膿術
- ③手術以外の入院：  
突発性難聴にたいするステロイド投与（糖尿病合併例）、急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、頸部リンパ節膿瘍、急性化膿性中耳炎
- ④エコー下細胞診およびコアニードル生検：甲状腺腫瘍、リンパ節腫瘍、耳下腺腫瘍
- ⑤他科の気管切開症例の管理、等内科入院例の併診

### 2. スタッフ

部長

越智 篤 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医  
日本耳鼻咽喉科学会認定指導医

### 3. 診療実績

#### (1) 外来診療

月曜から土曜日まで午前中の受付で2診で外来診療を行っています。部長越智ともう一人は東京大学医学部付属病院耳鼻咽喉科より派遣された医師の2名で行っています。常勤医赴任後は、患者数、診療点数、診療行為（喉頭内視鏡による咽喉頭の生検、鼓膜切開等）いずれも増加しています。

午後は月曜日と木曜日に全身麻酔の手術、火曜日と金曜日に局所麻酔の手術やエコー下穿刺細胞診などを行っています。

#### (2) 手術

2018年7月～12月の耳鼻咽喉科（手術室での）手術症例数

（症例数・併施は1と数える。ただし、1月～6月は手術室で手術を行っていない）

- ・気管切開術 3
- ・内視鏡的副鼻腔手術／鼻中隔矯正術／下鼻甲介切除術 8
- ・鼓膜換気チューブ留置術 5
- ・扁桃摘出術／アデノイド切除術 5
- ・気管孔狭窄拡大術 1
- ・甲状腺半葉切除術 2
- ・皮膚腫瘍摘出術 3（うち植皮をとともなうもの1例）
- ・リンパ節摘出／生検術 3
- ・耳下腺浅葉切除術 1
- ・鼓膜形成術／鼓室形成術Ⅰ型 3
- ・止血術 1

### 4. 教育・研修

あらたに耳鼻咽喉科手術を始めるに当たって、C2病棟・手術室・耳鼻咽喉科外来向けに勉強会を計7回行いました。

若手医師の会にて「めまい診療について」講義

を行いました。健康まつりにて「副鼻腔炎の手術治療について」ミニ講演を行いました。

## 手術件数

KCODE	手術名	件数
K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm以上、4cm未満）	1
K300	鼓膜切開術	1
K309	鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	5
K318	鼓膜形成手術	2
K318	鼓膜形成手術	1
K3191	鼓室形成手術（耳小骨温存術）	1
K333	鼻骨骨折整復固定術	1
K339	粘膜下下鼻甲介骨切除術	1
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型（選択的〈複数洞〉副鼻腔手術）	1
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型（選択的〈複数洞〉副鼻腔手術）	6
K347	鼻中隔矯正術	1
K347-3	内視鏡下中隔手術I型（骨、軟骨手術）	1
K347-5	内視鏡下鼻腔手術I型（下鼻甲介手術）	1
K370	アデノイド切除術	1
K3772	口蓋扁桃手術（摘出）	5
K386	気管切開術	1
K3891	声帯ポリープ切除術（間接喉頭鏡によるもの）	1
K3892	声帯ポリープ切除術（直達喉頭鏡によるもの）	1
K401	気管口狭窄拡大術	1
K4501	唾石摘出術（表在性のもの）（一連につき）	1
K4571	耳下腺腫瘍摘出術（耳下腺浅葉摘出術）	1
K6261	リンパ節摘出術（長径3センチメートル未満）	3
K6262	リンパ節摘出術（長径3センチメートル以上）	2

## 精神科

### 1. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院に精神科が開設されたのは、1986年です。精神科非常勤医師1名の体制で始まり、1993年からは常勤化され、20年以上が経過しました。現在は精神科常勤医師2名の体制となっています。

日本の精神医療は、歴史的に単科精神病院での入院治療を中心に展開されてきましたが、1970年代以降は地域の中で生活しながら治療を受けることが重要視されるようになってきています。その結果、地域の中に数多くの精神科クリニックが開設され、以前と比べ精神科医療は患者さんにとって大変利用しやすいものとなっています。その一方で、総合病院における精神科医療は大きく広がることはなく、むしろ最近は総合病院で働く精神科常勤医師数は先細りの傾向にあり、埼玉県南部地域でも常勤医師が複数いる病院は非常に少ないのが現状です。

当院は総合病院に開設された精神病床を持たない精神科として、以下のような特徴をもった医療を展開しています。

まず第一に、当院が地域の第一線の医療機関であることから、高齢者から若い方(概ね高校生以上)まで幅広い年齢層の患者を受け入れています。精神科入院医療を必要とするような重症例は受け入れることはできませんが、認知症、うつ病、不安障害、慢性期の統合失調症、アルコール依存症など幅広い疾患を受け入れています。

第二には、身体疾患の治療をしながら精神科医療を提供できることも特徴です。特に高齢期には身体疾患に加え、認知症やうつ状態の合併も多く、こころと体の問題を総合的に診ていくことで質の高い医療が提供できます。

第三には、最近では出産子育ての過程で精神的に

不安定となる方や、あるいは精神疾患をもともと抱える中で出産子育てをする方も増えてきており、産婦人科、小児科などとも連携をとりながら家族全体の生活を支援していくことも大切な活動となっています。

前記のような特徴を生かし発展させるために、地域住民、他の医療機関、行政、地域の福祉施設などとの連携を強める活動も行っています。

### 2. スタッフ

部長

雪田 慎二 日本精神神経学会認定専門医(指導医)

日本総合病院精神医学会特定指導医  
精神保健指定医

一般病院連携精神医学特定指導医

医長

荻野マリエ 日本精神神経学会認定専門医(指導医)

精神保健指定医

### 3. 診療実績

- ・外来診療：月～金で再来1～2診体制。新患外来は別枠で実施。新患は年間約158例。
- ・精神科デイケア：月・水・金の週3回実施。
- ・リエゾン活動：身体科入院患者への精神科医療の提供。緩和ケアチーム回診。認知症ケアチーム回診。リエゾンチーム回診。
- ・緩和ケア病棟：病棟スタッフとして診療。
- ・被ばく相談外来：週1回。放射線被ばくによる健康問題の相談援助。

### 4. 教育・研修・研究活動

- ・精神科多職種カンファレンス(週1回)
- ・精神科抄読会(週1回)
- ・地域の社会復帰施設との合同カンファレンス(1回/2ヵ月)

## 5. その他

地域での講演活動（認知症・うつ病・統合失調症など精神障害に関する啓発的講演、被爆者医療・放射線被ばくによる健康影響等についての講演）

## 病理診断科

### 1. 概要、特徴、特色

常勤医1名と非常勤医3名の病理医が診断を行っています。難しい症例は東京医科歯科大学より週1回指導をしていただき、慎重に最終診断をしております。内視鏡の病理診断については日本消化器内視鏡学会専門医にも診断に加わっていただき、精度の向上に努めております。

細胞診断では日本臨床細胞学会で認定を受けた6名の細胞検査士とともに診断を行っています。特に婦人科細胞診では、産婦人科臨床医でもある細胞診専門医との緊密な協力の下に診断にあたっています。

### 2. スタッフ

#### 病理部長

石津英喜 日本病理学会専門医  
日本臨床細胞学会専門医  
日本内科学会総合内科専門医

#### 産婦人科病棟医長

芳賀厚子 日本臨床細胞学会細胞診専門医  
日本産科婦人科学会産婦人科専門医  
日本専門医機構産婦人科専門医  
日本産科婦人科学会専門研修指導医  
母体保護法指定医  
日本母体救命システム普及協議会  
ベーシックコース修了  
新生児蘇生法講習会Aコース受講

#### 非常勤

大石克巳 日本内科学会総合内科専門医  
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡  
専門医  
北野元生 日本病理学会口腔病理専門医  
江石義信 日本病理学会専門医

### 3. 診療実績

#### 検体数の推移

年	2011年	2012年	2013年	2014年
解剖数	16	14	8	9
生検数	6,948	6,989	7,138	7,136
細胞診数	7,460	6,937	6,982	6,923
年	2015年	2016年	2017年	2018年
解剖数	12	20	8	14
生検数	6,147	5,955	5,930	5,551
細胞診数	7,405	7,503	6,436	6,266

### 4. 教育・研修・研究活動

#### (1) 教育・研修

認定施設：日本病理学会研修認定施設B、日本臨床細胞学会認定施設  
病理科内での症例検討会：週1回  
消化器カンファレンス：週1回  
CPC（臨床病理検討会）：医局主催で年5回程度  
乳腺カンファレンス：週1回

### 5. その他

当院の特徴として、病理診断管理加算を算定するために病理診断以外の勤務を制限する体制はとっておりません。病理専門医であっても当直、外来、内視鏡検査などをしながら病理診断管理加算以上の貢献ができる勤務体制や、病理診断をしながら臨床能力も高め続けることのできる病理医の養成に努めています。

## 糖尿病内科

日本糖尿病学会専門医

糖尿病学会認定研修指導医 3 名、糖尿病学会専門医 4 名

院内 C D E J (Certified Diabetes Educator of Japan) 14 名

### 1. 概要、特徴、特色

糖尿病領域を中心とした専門的診療を行っています。1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病を含め、各種病態患者の診療を行い、健康寿命の延伸を治療目標にしています。糖尿病を併発している外科領域の患者の血糖コントロールについても、連携をしています。他の医療機関との連携もとって、紹介患者の診療にあたっています。

患者会活動も行っており、糖尿病教室、糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会を行っており、コメディカルスタッフと協同して患者教育にも努めています。

### 2. スタッフ

糖尿病専門外来、糖尿病初診外来、はじめ外来、フットケア外来、外来栄養指導、糖尿病透析予防指導外来を行っています。

科長

村上 哲雄 日本糖尿病学会研修指導医  
日本糖尿病学会専門医  
日本内科学会認定内科医

医長

島村 裕子

医員

高橋きよ子 日本糖尿病学会研修指導医  
日本糖尿病学会専門医  
日本内分泌学会内分泌代謝科  
(内科) 専門医  
日本内分泌学会内分泌代謝科指導医  
日本内科学会認定内科医

関口由希公 日本糖尿病学会専門医

川合 汐里 日本内科学会認定内科医

非常勤

清水 縁 日本糖尿病学会研修指導医

### 3. 診療実績

(1) 外来診療 (患者数 2018 年 11,865 人)

- 1) 糖尿病外来を予約外来として行っており、初診外来で他の医療機関からの紹介患者、および院内からの依頼患者の診療にあたっています。また、妊娠糖尿病患者、糖尿病合併妊娠の患者の管理も行っています。
- 2) 糖尿病教育、糖尿病教室も含めての、“はじめ外来”を行っており、診察も並行して行い、合併症の評価もしながら指導しています。また、はじめ外来ではカンパセーションマップ(会話のための地図)を用いての患者教育、栄養指導、薬の指導も行っています。
- 3) インスリン導入は外来で行うことが多く、糖尿病外来でのインスリン使用患者数は年間 843 名(うち 75 歳以上 145 名)でした。また、インスリン注射の手技の再チェックを必要時行っています。
- 4) GLP-1 注射薬(ビデユリオン、ビクトーザ、リキスミア、バイエッタ、トルリシティ)も導入しています。
- 5) CSII(持続皮下インスリン注入療法)も行っています。
- 6) CGMS(持続血糖モニタリングシステム)も血糖日内変動を詳細に把握できる点で優れており、入院、外来で施行しています。
- 7) フットケアも実施しており、足の管理、足病変の早期発見に努めています。
- 8) 糖尿病透析予防指導管理を行い、糖尿病腎症進展の防止に努めています。2012 年 10 月より開始して、診察、看護指導、栄養指導を包括的に行い、2018 年中では 117 名指導しました。

9) 糖尿病患者会、および日本糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会を行って啓発を行っています。

#### (2) 病棟診療

1) 糖尿病コントロール入院にて食事療法、薬物療法、運動療法を含めて教育も行い、43名がパスに則りコントロールを行いました。

### 4. 教育・研修・研究活動

#### (1) 教育

1) 毎週1回糖尿病カンファレンスを医師、コメディカルスタッフで行っており、症例数は2018年は119名であり、患者の日常生活環境、問題点などについて検討し、指導のポイントなどについて討論を行い、患者のQOL向上に努めています。

2) 毎月1回糖尿病事務局会議を行い、新しい情報の検討、診療業務の改善、向上に努めています。

#### (2) 研究

1) 糖尿病合併症進展因子についての検討

2) 糖尿病腎症の進展予防に対する、新しい糖尿病治療薬の効果についての検討

#### (3) その他

##### 1) 学会活動

日本糖尿病学会年次学術集会、日本糖尿病学会関東甲信越地方会、「糖尿病学の進歩」

##### 2) 研究会活動

- ・2018年2月18日 埼玉民医連看護学会  
樋川実里「糖尿病コントロール入院におけるDPC期間IIでの退院促進の取り組み(その2)」
- ・2018年2月18日 埼玉民医連看護学会  
箭川正子「糖尿病網膜症予防における外来での具体的取り組みとその評価」
- ・2018年5月24日 第61回糖尿病年次学術集会(東京国際フォーラム)  
浅川友美「重症低血糖で当院へ救急搬送された症例の臨床的検討」
- ・2018年6月11日 第1回彩の国から糖尿病治療を考える(パレスホテル大宮)

箭川正子「当院における高齢者糖尿病患者に対する治療指導の実際」

- ・2018年9月30日～10月1日 第14回全日本民医連看護介護活動研究交流集会(仙台)  
樋川実里「糖尿病(DM)コントロール入院におけるDPC期間IIでの退院促進の取り組み」
- ・2018年10月11日 第7回南埼玉CGMカンファレンス(川口フレンジア)  
小島史子「重症低血糖をくり返し救急搬送された1例」
- ・2018年12月16日 埼玉民医連学術・運動交流集会(法人内)  
吉田理紗「糖尿病患者への高血糖問診に関する調査報告」

## 麻酔科

### 1. スタッフ

常勤医：西川 毅、黒羽根朋子、金子吾朗

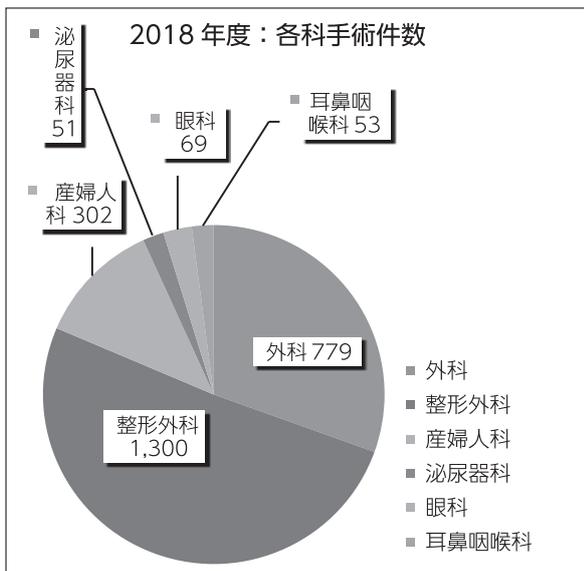
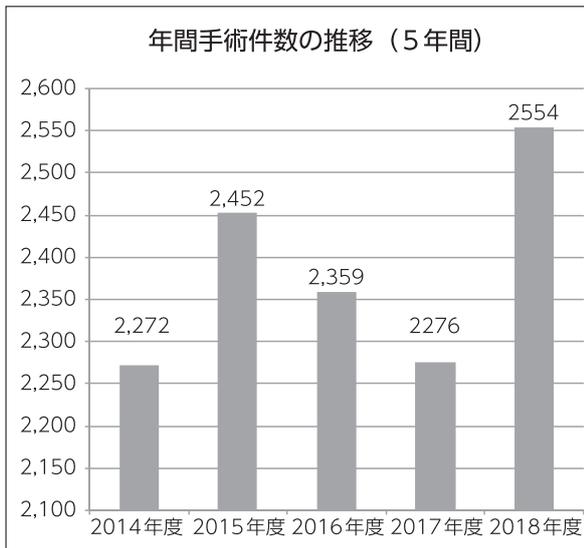
非常勤：岩切裕子、畔柳 綾、他7名

初期研修医は適宜受け入れており、基本1ヵ月を金子医師がメインで指導しています。

### 2. 日常診療

#### (1) 手術室

2018年度の総手術件数は2,554件、そのうち麻酔科管理は2,020件（79%）でした。



症例数の年次変化は左下のグラフに示すとおりです。金子吾朗医師の復帰により、緊急帝王切開の待機が可能となり、また、各種ブロック麻酔も盛んになってきました。

#### (2) 外来診療

##### 1) 麻酔科外来

2006年5月より始まった外来は、術前診察目的で月、土の週2日行ってまいりました。外科、眼科外来の間借りから出発した診療は、F棟完成時にその2階を使わせていただけるようになりました。3診あって、うち2診で看護師の間診、残り1診で医師の診察です。2018年度の総外来患者数は1,763人でした。

##### 2) ペインクリニック

2016年4月から週1回水曜日に東京女子医大から畔柳医師にお越しいただき、金子医師と二人で診察を行っています。対象は痛み全般です。三叉神経痛、頸椎症、頸椎ヘルニア、肋間神経痛、腰部脊柱管狭窄症、腰椎ヘルニアなど。薬物治療、局所麻酔によるブロック、透視下ブロック、高周波熱凝固治療等施行しています。2018年度の外来者数は951名でした。

#### (3) 術前術後回診

予定手術の術前回診のほとんどは麻酔科外来で済まされていますが、緊急、準緊急症例は病棟訪問することになります。

